

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成21年4月30日(2009.4.30)

【公表番号】特表2008-533102(P2008-533102A)
 【公表日】平成20年8月21日(2008.8.21)
 【年通号数】公開・登録公報2008-033
 【出願番号】特願2008-501329(P2008-501329)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 P 1/08 (2006.01)

A 6 1 P 27/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/198

A 6 1 P 1/08

A 6 1 P 27/16

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月13日(2009.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アセチル - ロイシンを有効成分として含む、温度眼振検査により前庭障害が75%以下である患者において急性求心路遮断症候群を治療するための薬剤。

【請求項 2】

前記症候群が、聴神経における知覚インパルスの主に片側の伝達における平衡異常から生じる間欠性急性求心路遮断症候群である、請求項 1 記載の薬剤。

【請求項 3】

前記症候群が、眩暈を伴う、聴神経における知覚インパルス伝達の片側の欠損を引き起こす事象により生じる間欠性急性求心路遮断症候群である、請求項 1 記載の薬剤。

【請求項 4】

前記症候群が外科的片側神経切離により生じる急性求心路遮断症候群である請求項 1 記載の薬剤。

【請求項 5】

前記症候群が、外傷性片側神経切離、聴神経の急性虚血に係する片側神経切離、外因性圧迫による片側神経切離、構造的浮腫による片側神経切離、および内因性ウイルス攻撃による片側神経切離からなる群より選ばれる片側神経切離から生じる間欠性急性求心路遮断症候群である請求項 2 記載の薬剤。

【請求項 6】

アセチル - ロイシンが、(DL) - アセチル - ロイシン、(D) - アセチル - ロイシン、および (L) - アセチル - ロイシンからなる群より選ばれる、請求項 1 ~ 5 のいずれかの項記載の薬剤。

【請求項 7】

経口経路または静脈内経路で投与する、請求項 1 ~ 6 のいずれかの項記載の薬剤。

【請求項 8】

アセチル - ロイシンを、1 日当たり 500mg ~ 10 g の用量で経口経路で投与する、請求項 1

～ 7 のいずれかの項記載の薬剤。

【請求項 9】

アセチル - ロイシンを、1 日当たり 1 g ～ 2 g の用量で経口経路で投与する、請求項 8 記載の薬剤。

【請求項 10】

アセチル - ロイシンを、間断なく 1 日当たり 500mg ～ 1 g の用量で静脈内経路で投与する、請求項 1 ～ 7 のいずれかの項記載の薬剤。

【請求項 11】

温度眼振検査により前庭障害が 75 % 以下である患者において急性求心路遮断症候群を治療するための薬剤を製造するためのアセチル - ロイシンの使用。

【請求項 12】

前記症候群が、聴神経における知覚インパルスの主に片側の伝達における平衡異常から生じる間欠性急性求心路遮断症候群である、請求項 11 記載の使用。

【請求項 13】

前記症候群が、眩暈を伴う、聴神経における知覚インパルス伝達の片側の欠損を引き起こす事象により生じる間欠性急性求心路遮断症候群である、請求項 11 記載の使用。

【請求項 14】

前記症候群が外科的片側神経切離により生じる急性求心路遮断症候群である請求項 11 記載の使用。

【請求項 15】

前記症候群が、外傷性片側神経切離、聴神経の急性虚血に係する片側神経切離、外因性圧迫による片側神経切離、構造的浮腫による片側神経切離、および内因性ウイルス攻撃による片側神経切離からなる群より選ばれる片側神経切離から生じる間欠性急性求心路遮断症候群である請求項 12 記載の使用。

【請求項 16】

アセチル - ロイシンが、(DL) - アセチル - ロイシン、(D) - アセチル - ロイシン、および (L) - アセチル - ロイシンからなる群より選ばれる、請求項 11 ～ 15 のいずれかの項記載の使用。

【請求項 17】

アセチル - ロイシンを経口経路または静脈内経路で投与する、請求項 11 ～ 16 のいずれかの項記載の使用。

【請求項 18】

アセチル - ロイシンを、1 日当たり 500mg ～ 10 g の用量で経口経路で投与する、請求項 11 ～ 17 のいずれかの項記載の使用。

【請求項 19】

アセチル - ロイシンを、1 日当たり 1 g ～ 2 g の用量で経口経路で投与する、請求項 18 記載の使用。

【請求項 20】

アセチル - ロイシンを、間断なく 1 日当たり 500mg ～ 1 g の用量で静脈内経路で投与する、請求項 11 ～ 17 のいずれかの項記載の使用。